

日高川における稚アユその上状況

中西 一，藤井久之

アユ資源の維持・増大を図る基礎資料を得るため，日高川において稚アユのその上状況を調査したのでその結果を報告する。

調 査 方 法

調査地点 調査は，図1に示した若野堰（日高郡川辺町若野地先，河口から約7.6km上流）に設置された階段式魚道で行った。この地点は潮汐の影響は全くなく，またこれより下流に堰堤はない。

調査方法 1992年3～5月まで，1日3回（10，13，16時）15分間ずつ魚道をその上する稚アユを計数し，それを基に1日のその上量を推計した。

他の河川については，漁業協同組合（9組合）を対象にアンケート調査を行った。

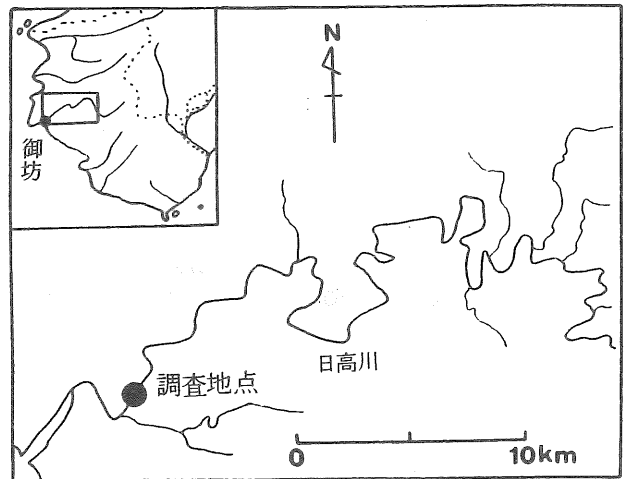


図1 調査地点

結 果 お よ び 考 察

稚アユのその上状況

3～5月の河川水温は10.1～18.5℃であった（図2）。その上状況を図3に示した。初その上は3月10日（約300尾，水温11.4℃）にあり，平年より2週間程早かった。

1日当たりのその上尾数

（万尾）を旬別にみると，

3月は中旬0～0.3（計約0.5，以下同じ），下旬0～4.2（約5.5），4月は上旬0.5～27.0（約140），中旬0.4～6.2（約29），下旬0.3～20.1（約71），5月は上旬0～6.3（約15），中旬0～2.1（約2.1），下旬0～1.5（約4.3）であり，中でも4月10日が最多（約27万尾）であった。

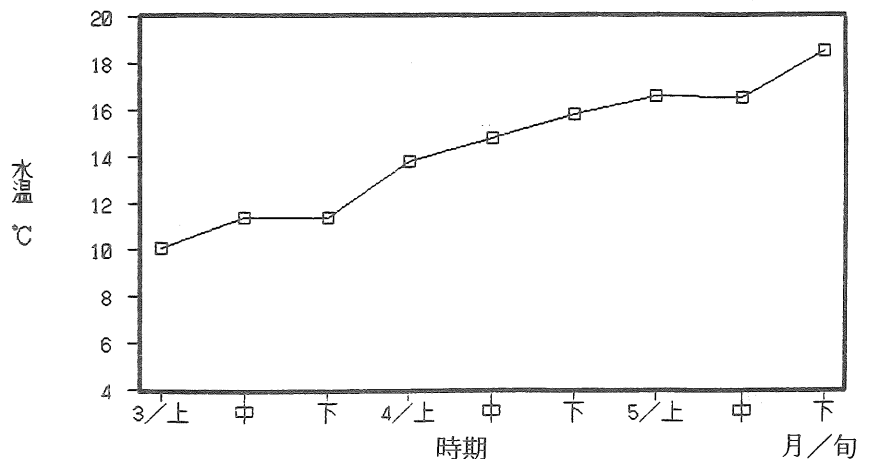


図2 水温の推移（13時）

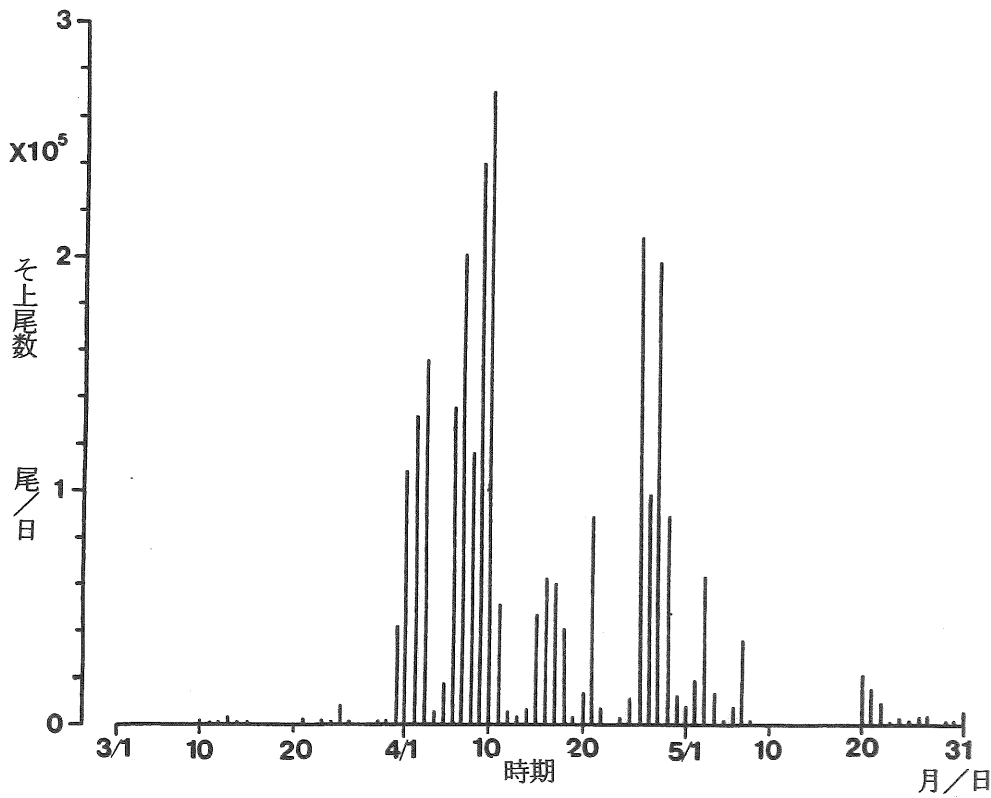


図3 稚アユそ上状況

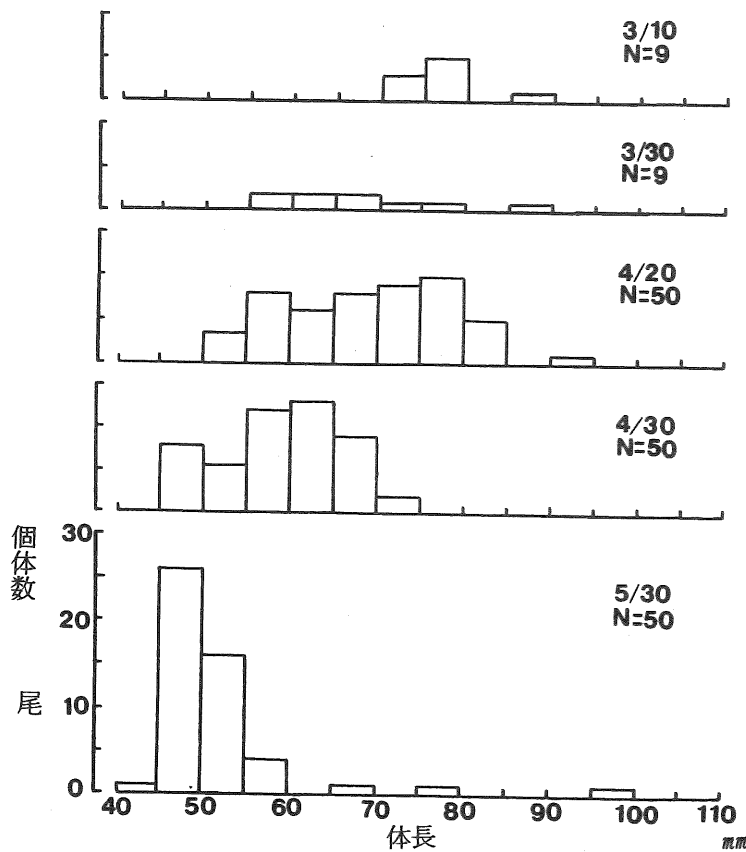


図4 稚アユの体長組成

月別では、3月約6万尾、4月約240万尾、5月約21万尾であり、4月に全体のほぼ90%が集中し3~5月は計約270万尾であった。

これらのことから、そ上は3月上旬に始まり、4月に急激に増加し上旬と下旬にピークとなり、6月上旬には終了したものと考えられる。開始から終了までのそ上尾数は約300万尾と推定され、この値は前年（約620万尾）の約 $\frac{1}{2}$ 、平年とほぼ同程度である。今年のそ上状況の特徴は、初そ上が早く、4月に集中し、双峰型であったことであつた。

図4にそ上稚アユの体長組成を示した。初そ上のあつた3月10日は、体長73~86mm（モード75~80mm、以下同じ）であり、3月30日

は57~89mmで60mm以下が混じりはじめた。4月20日は51~95mmで55mm以下もみられはじめ、4月30日は46~73mm(60~65mm)で50mm以下も混じりはじめた。5月30日は43~99mm(45~50mm)で45mm以下もみえた。このように、初期にそ上する魚は大きい、その後次第に小型化するようである。

他河川の状況 稚アユのそ上は全ての河川でみられ、平年と比べた結果を表1に示した。そ上尾数は4河川が多かったが、逆に4河川で少なかった。そ上時期は早い~遅いとまちまちであった。魚体は同程度5河川、小さい3河川であった。

表1 他河川の状況

項	目	河川数
尾 数	多 い	4
	同程度	1
	少 ない	4
時 期	早 い	2
	同程度	4
	遅 い	2
	不 明	1
魚 体	大 きい	1
	同程度	5
	小 さい	3